

2011. 縄文の道フォーラム

国際シンポジウム

縄文文化とユーラシアの様相

Phenomena of the Jomon Era and the Eurasian Neolithic



日時 10月29日(土) - 30日(日)

両日とも午前9時30分から午後5時まで

場所 金森ホール 函館市末広町 14-12

入場 無 料 *同時通訳あり

定員 150名

ご希望の方は下記の連絡先に、電話、ファックス、Eメールでお申し込みください。
定員になり次第締め切らせていただきます。

人類は、幾度となく起こった激しい気候変動や
環境変化を乗り越え、今日の文化を築いてきました。
このフォーラムは、日本とドイツの交流 150 周年と
函館市縄文文化交流センターの開館を記念して、
国際的な視点から、自然と人間のあり方について
最新の考古学・植物学の調査を基に話し合うものです。
市民の皆様のご参加をお待ちしております。

基調講演 サイモン・ケナー (英イースト・アングリア大学日本研究センター長)

特別講演 安田喜憲 (国際日本文化研究センター教授)

事例報告 日本と海外の研究者による発表

総括 菊池徹夫 (日本考古学協会会長)



このフォーラムはドイツ連邦共和国により「日独交流 150 周年」事業に認定されています。

主催 国際縄文フォーラム実行委員会 (NPO 法人函館市埋蔵文化財事業団・ドイツ考古学研究所・ベルリン日独センター)

共催 函館市教育委員会 北海道新聞社

協賛 サッポロビール株式会社 北洋銀行函館中央支店 竹葉新葉亭 (株)竹田測量設計 (株)阿部建設 函館市南かやべ縄文文化創生の会

協力 北の縄文文化を発信する会

後援団体 北海道教育委員会 北海道渡島総合振興局 NPO 法人国際縄文学協会 日本考古学協会 日本第四紀学会 北海道考古学会 北方島文化研究会 南北海道考古学情報交換会 北の縄文 CLUB 函館日独協会 道南ブロック博物館施設等連絡協議会 函館商工会議所 NHK 函館放送局 朝日新聞社 函館新聞社 函館山ロープウェイ(株)FM いるか NCV 株式会社ニューメディア函館センター

問い合わせ先: NPO 法人函館市埋蔵文化財事業団内「国際縄文フォーラム実行委員会事務局」 TEL:0138-25-5510

URL: <http://www.npo-hako-maibun.jp> E-mail: mail@npo-hakomaibun.jp

FAX:0138-25-5606



10/29 土

開会セレモニー

9:30 ~ 10:20

※9月12日現在

開会宣言

来賓挨拶

工藤 壽樹 (函館市長)

ピット・ヘルトマン (ドイツ大使館参事官)

菊池 徹夫 (日本考古学協会会長)

ハンス・ヨアヒム・ジェオーク (ドイツ考古学研究所前所長)

主催者挨拶

フリデリーケ・ボッセ (ベルリン日独センター事務総長)

阿部 千春 (国際縄文フォーラム実行員会事務局長)

基調講演

10:20 ~ 11:00

サイモン・ケナー (英イースト・アングリア大学日本研究センター長)

「日本における新石器時代 — 縄文文化 —」

事例報告

11:00 ~ 12:00

1 パベル・タラソフ (ベルリン自由大学教授)

「ここ 8000 年間のユーラシアの環境変化」

2 紀藤 典夫 (北海道教育大学函館校教授)

「10,000 年から 5,000 年前の北海道の環境変化」

12:00 ~ 13:00 昼食

13:00 ~ 14:00

3 アンジェイ・ウェーバー (カナダエドモントンアルバータ大学教授)

「東シベリアバイカル地域における新石器時代の気候変動と文化変動の関連について」

4 宮塚 義人 (宮塚文化財研究所)

「なぜ石刃鏃文化は北海道に南下したか
— 火山活動による環境変化と考古学的資料 —」

14:00 ~ 15:00

5 キース・ドブニー (アバディーン大学教授)

「初期農耕の起源と拡散の研究における新たな生物考古学的
アプローチについて：ユーラシア的視点から」

6 南川 雅男 (北海道大学大学院地球環境科学研究院教授)

「土器付着物の同位体組成が意味する
縄文時代の食物利用パターン」

15:00 ~ 15:30 休憩

15:30 ~ 16:30

7 クラウス・シュミット (ドイツ考古学研究所オリエント部)

「人類最初の神殿 — トルコ南東部 ギョベクリ・テペ遺跡 —」

8 長沼 孝 (北海道教育委員会文化・スポーツ課主幹)

「日本の縄文時代の記念物
— ストーンサークルと周堤墓 —」

ディスカッション

16:30 ~ 17:00

10/30 日

事例報告

9:30 ~ 10:30

1 ゲイリー・クロフォード (トロント大学教授)

「北東アジアにおける古民族植物学研究の 35 年
— 我々は何を学んだか? —」

2 山田 悟郎 (北海道開拓記念館学芸員)

「北海道の遺跡から発掘された栽培植物」

10:30 ~ 12:00

3 羽生 淳子 (カルフォルニア大学バークレー校人類学部教授)

「生業の専門化、気候変動、
縄文ランドスケープに与えた人類への影響」

4 鈴木 三男 (東北大学植物園教授)

「縄文時代の有用植物 — うるしの考古植物学 —」

5 高宮 広土 (札幌大学文化学部自然人類学・先史文化学教授)

「沖縄の先史文化 — 環太平洋の環境文明史プロジェクト —」

12:00 ~ 13:00 昼食

特別講演

13:00 ~ 14:00

安田 喜憲 (国際日本文化研究センター教授)

「人類の歴史と気候変動」

事例報告

14:00 ~ 15:00

6 ダグラス・W・ベイリー (サンフランシスコ州立大学教授)

「縄文時代における土偶とバルカン半島の立像」

7 阿部 千春 (函館市教育委員会生涯学習部参事)

「著保内野土偶に見られる縄文時代の精神性
— 故意破壊を中心として —」

15:00 ~ 15:30 休憩

15:30 ~ 16:30

8 ティモシー・インソル (マンチェスター大学教授)

「考古学・祭祀・宗教 — 民族学的視点とその可能性 —」

9 加藤 博文 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授)

「北海道の考古学の可能性
— バイカル・北海道考古学プロジェクト —」

ディスカッション

16:30 ~ 16:40

総括

16:40 ~ 17:00

菊池 徹夫 (日本考古学協会会長)